

アナウンサーのスポーツ実況

～スポーツ中継とバラエティの実況の違い～

スポーツコミュニケーションゼミナール 1313005 石井 嘉穂

1. 研究動機・研究目的

NHK アナウンサー竹林宏は実況について「見ればわかることをテレビ実況でしゃべり過ぎると、見ている方は興ざめしてしまう。アナウンサーは吟味した情報を短めに伝えるという実況が理想。」と述べている。一方で、私が大学3年生の時に通っていたTBSアナウンススクールではアナウンサーの講師の方に「最近クイズ番組やバラエティ番組での実況が増えている。スポーツ中継の実況とは違い、声を大きく上げたり、声のトーンを上げたりしないといけないので大変だ。」という話をお伺いした。その時初めて、アナウンサーの方たちが実況をする際に、映像の内容やその場の雰囲気や臨機応変に話し方や実況内容を変えているということを知った。私自身、実況は映像を引き立たせ、視聴者がわかりやすく見るために必要なものだと考えている。

本研究では、視聴者などの受け取り手側は今日の実況をどのように感じているのかを明らかにし、聞きやすい実況とはどのような伝え方、内容なのかを考察する。

2. 研究方法

本研究では、フォーカスグループインタビューを用いた。

3. 主な結果と考察

本研究の結果から、テンションの高い実況は、面白みや楽しさを感じる反面、騒がしく耳障りという印象を与えてしまうという結果が出た。また、スポーツ中継での実況であれば映像を見なくても少しは試合内容が分かるが、バラエティ番組での実況では映像がないとわからないという意見も多かった。話す頻度が高いのはバラエティ番組だったが、わかりやすいのはスポーツ中継であり、実況の質も番組によって変えていることが明らかになった。バラエティ番組を見ている人はスポーツに興味がない人も多いだろう。ただ楽しくて面白い試合を期待している視聴者も多いので、専門用語を使い真面目に実況をするよりもプレー中などの静かな時間も実況で繋ぎ、面白い実況をした方が見ていて飽きないのではないかと考える。そして、これらのことを踏まえて私は、番組を視聴する目的によって実況の印象というのは大きく変わってしまうというのではないかと考察した。バラエティ番組を見る時は企画として行われた試合の勝ち負けではなく、結果に依存せずただ楽しむことが目的である。一方でスポーツ中継の試合となれば、視聴する目的は試合の勝敗や、結果に至るまでのゲーム展開、プレイヤー独自のプレースタイル、テクニクなどを観戦することが主な目的である。バラエティ番組における試合は、スポーツ選手同士が試合をする時ほど内容は面白くないが、試合内容以外のタレントの動きや発言にフォーカスするため、抑揚をつけることや発言の頻度を上げることが実況に求められるスキルなのではないかと考える。一方でスポーツ中継に関してはバラエティ番組に比べて淡々としていて物

静かな印象だった。これは目的が試合内容に重きを置く人が多いため、実況の発言が少なかつたり、落ち着いた雰囲気であつたりとしても番組が成り立つのではないかと考えた。

また、興味深い結果も得られた。結果図を見てみると、バラエティ番組は実況者が発言すればするほどネガティブな回答が目立ち、スポーツ中継の実況に関しては実況者の発言量が少ないことが起因してポジティブな回答が目立っていた。つまり、発言量と視聴者の満足度が反比例しているということである。私はこれこそが実況者に求められるスキルなのではないかと考える。いかに短い言葉で端的にわかりやすく現場の状況を視聴者に伝えることができるか、そしてそれを視聴者は求めているということがわかった。

この研究を通じて、実況も映像を作るために必要な存在だということを改めて感じることができた。実況の印象を変えるだけで映像が真面目なものにもなれるし、面白いものにもなれる。実況はスポーツにとどまらず多くの分野で様々な使い方ができるのではないかと考える。

4. 結論

結果と考察を受けて、実況は「その番組に対して視聴者が求めているものを感じ取り、その場その場で臨機応変に実況の仕方を変えていくこと」が大切ということが明らかになった。さらに、視聴する目的によってアナウンスメントは変えなければならないということも考察した。バラエティ番組に視聴者が求めていることは「面白さ、楽しさ、盛り上がり」であるため、実況の仕方も盛り上げたり、面白い言い回しをしたりして、スポーツに興味がない人にも面白いと思ってもらえるような実況が求められる。しかし、盛り上げようとすすぎてしまうと視聴者に不快感を与えてしまう。一方、スポーツ中継では、視聴者はスポーツの試合に集中したいと思っている場合が多いので、実況も試合を邪魔しないような仕方が求められている。また、スポーツ中継の実況では選手の情報や専門用語が多く使われており、もともとスポーツを見たり行ったりしている「スポーツに興味がある視聴者」がターゲットになっているのではないかと感じた。以上のことから、バラエティ番組、スポーツ中継に限らず、視聴者の気持ちを汲み取り、臨機応変に実況を変えていくことがこれからは必要となってくるのではないかと考える。

5. 卒業論文の執筆を終えて

今後の課題としては、今回は調査対象者を20代の学生14人としたが、実際にテレビを視聴するのは年下の小中高生、親世代、高齢者層ともっと幅広い。よって、調査対象者の年代層をさらに拡大すること、人数を増やすことが必要である。これによって本研究で得られた結果の有意性を高めることが重要である。さらには調査対象番組の種類を増やすことと、他のスポーツとの比較も行うことで、より多角的な視点から結果に対するアプローチ、新たな発見をすることができると予想する。具体的な話をすると、テニスや卓球などのスポーツ実況はラリー中一瞬たりとも目の離せない緊迫した状況なので、観客は静かで実況だけ聞こえている状況である。一方でサッカーや野球などのスポーツを見てみると、観客は大歓声で応援をし、会場を盛り上げている。加えて実況者のテンションも高いため、違いが明白である。このようなことから調査対象のスポーツの種類を増やすことは大変重要でだと考える。